

「寿命革命」へ研究紹介

弘大COIがサミット

弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションサミット2020が31日、弘前市のアートホテル弘前シティで開かれた。全国から約500人が参加し、「寿命革命」を指した第一線の研究や取り組みに耳を傾けた。

弘前大学、県、弘前

市が主催し、「産学官金民」の関係者らが一堂に会した。基調講演では、弘前大学COI拠点長で研究統括の中路重之医学研究科特任教授が「QOL健診」で健康未来を切り拓く」と題し、取り組みを進めているQOL健診(啓発型健診)の現状を紹介。同健診は受診から約2時間で本人に結果を伝え、その場での健康教育で行動変容につなげるもので、中路特任教授は「楽しく元気に勉強し役に立つものに」

としつつ、「最終的には岩木のビッグデータにQOL健診のデータ、そして医療や介護のデータを加えたい。そうすることで、これまでのデータに興味を



最新の研究や取り組みなどについて紹介したサミット

持っていた企業や研究者に加え、市民や自治体も一気に興味を示す場所になる。こうなつて初めてプラットフォームといえるのでは」と話した。(西尾瑛)